



3月12日付、農業共済新聞みやぎ版「復興・発展に向かって」と題した紙面において、南三陸町でEMを活用したトマト栽培に取り組む小野政道さんが取り上げられましたので、紹介いたします。

【南三陸町】「昔懐かしいトマトを皆さんに味わってほしい」と笑顔を見せる、南三陸町の小野政道さん(34)。東日本大震災に負けず、経営規模を拡大し、販路を広げながらさらなる

トマト、スプレーギク 前に進む気持ちを忘れず

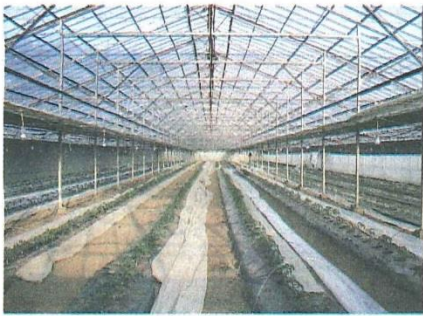
小野 政道さん・南三陸町



「昔懐かしいトマトをぜひ味わってほしい」と小野代表

発展を目指している。

震災時、津波が自身の畑まで押し寄せ、露地栽培のキクの一



震災時に稼働しなかったハウス屋根と春肥を待つトマト苗

部と資材が流失。トマトを栽培するハウスは、暖房機と自動開閉の屋根が停電で停止した。

10日後、全滅も覚悟しながらハウスをのぞくと、黄色い花が咲く光景が広がっていた。ライフレインが復旧しない中、ビニールシートで保温しながら川の水を手作業で与えると苗は回復し、1カ月遅れで出荷できた。

経営基盤をあらためて築くため、2012(平成24)年2月に法人「小野花匠園」を設立。従業員はパートを含めて27人で、ブランド「はるちゃんトマト」を中心にトマト3品種15坪とスプレーギク3畝を経営する。昨年10月からはイチゴ3畝を新たに開始。キクの花を加工してブーケを作るなど、生産・加工の幅を広げている。

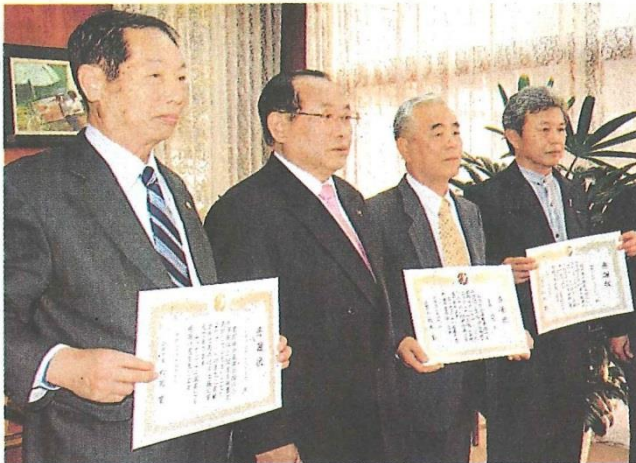
栽培では土壌管理に力を入れる。化学肥料を使わず、自社製有機質肥料を投入。農業使用を減らしてEM菌を活性化させ、病気に強いトマトを生み出す。休耕地を利用して、雇用の場を広げたいと話す小野代表。「震災から3年たつが、厳しい環境の中で咲くトマトの花を目にして感じた『前に進みたい』という強い気持ちを忘れない。雇用安定のために、これからも経営拡大を目指していきたい」と力強い。(船島)

学校プール水浄化するEM菌無償提供

山田、嘉穂LCなどに感謝状

EMを用いた学校プールの水質浄化に取り組む、嘉麻市の山田・嘉穂両ライオンズクラブと同市稲築地区の住民が、松岡賛市長から感謝状を受けられました。4月12日付、西日本新聞筑豊版に掲載されたので、紹介いたします。

環境美化に貢献したとして、嘉麻市の松岡賛市長は10日、EM菌を使った小中学校のプール水の浄化に取り組む山田、嘉穂西ライオンズクラブ(LC)と同市稲築地区の住民たちに感謝状を贈った。



EM菌を使った活動で嘉麻市の松岡賛市長(左から2人目)から感謝状を受けた関係者たち

EM菌は、乳酸菌などの微生物の集まりで、アンモニアなどの有害物質を分解する作用がある。EM菌の培養液をプールの水に入れると1カ月ほどで汚れが落ち、子どもたちが清掃する際に洗剤をほとんど使用せずに済むため、環境に優しく作業も楽になるといふ。

嘉麻市

田LCは2009年から地元の小中学校にEM菌を無償提供する取り組みを開始。旧嘉穂、碓井両町をエリアとする嘉穂LCと、旧稲築町の住民有志も続いた。

山田LCの斉藤太郎会長は「子どもたちの環境保全意識が高まる活動でもあり、市外にも積極的に拡大できれば」と話した。(鶴善行)